

資料1) 認知症患者への診療について

認知症グループホームに入所している中等度から重度の認知症患者への、訪問診療や24時間の対応は、認知症以外の病気の患者に比べるとより専門医としての役割が大きい。

●医療機関に時間関係なく連絡が来る事例

- ・幻覚や妄想により相談してくる
- ・不安や焦燥により相談してくる
- ・睡眠障害：「眠れない」と時間に関係なく訴えてくる
- ・部屋のベッドから落ちるなどの外傷を追った
- ・発熱などの急性疾患、急性増悪

●中等度から重度の認知症患者ゆえに必要なもの

- ・細かい薬の管理
なくす、飲み過ぎ、飲まない・・・など
- ・他の疾患の管理も診断と説明に時間と労力がかかる
- ・認知症だけでなく、生活習慣病を発症している患者が多く、両方の管理を行うための労力がかかり、神経への負担も大きい。
- ・認知症ケアとの連携が極めて重要である。
ケアスタッフとのカンファレンス無しに適切な治療、ケアはすすめられないため、訪問診療の後、ケアスタッフと全ての患者についてミニカンファレンスを行う必要がある。